

# これからのAI企業を考える

株式会社Splink  
代表取締役  
青山裕紀

## はじめに

国内における認知症患者数は潜在も含めると650万人<sup>1)</sup>に上るとも言われており、それに伴う経済損失は年間14.5兆円とも言われている。認知症は発症すると根治薬のない病気である。近年では認知症の原因となる物質をターゲットとした新薬の開発が進められているが、多くが認知症が発症する前の軽度認知障害(MCI)のステージを対象とした薬剤である。

そのため、認知症をはじめとした中枢神経系の疾患のこれからの治療においては、早期発見・早期診断とそれに伴う予防や薬剤による早期介入が重要とされている。

Splinkは「すべての人につながるを、その日まで」をビジョンに掲げ、認知症をはじめとする中枢神経領域で予防・早期診断のためのソリューションを提供している医療AIスタートアップである。脳MRI等の医用画像をAIに学習させ、脳バイオマーカーを定量可視化、認知症の予防と早期発見の実現に向けたソリューション開発・提供を通じた、人々のQOL向上を目指している。

## Splinkの提供プログラム

Splinkでは、脳MRIをAIで解析し、脳の中でも記憶や学習にかかわりの深い「海馬」領域の体積を測定・可視化、受診者様目線のわかりやすいレポートを届けることで気づきを促す「脳ドック用AIプログラム Brain Life Imaging<sup>®</sup>」、脳MRIより脳の減少度萎縮を定量・数値化することで診断に役立つ情報を提供し、診断支援をおこなう「脳画像解析プログラム Braineer<sup>®</sup>」を主力製品として提供している。本レポートでは、「脳ドック用AIプログラム Brain Life Imaging<sup>®</sup>」を紹介する。

## 脳ドック用AIプログラム「Brain Life Imaging<sup>®</sup>」概要

従来の脳ドックでは、脳MRI/MRA検査は脳卒中や動脈硬化等の血管系の疾患リスク評価が主であるが、当社の「Brain Life Imaging<sup>®</sup>」は脳MRIを用いて記憶の中枢を司る海馬の体積をAIにより高精度に計測するという新しいプログラムである。

また、脳の健康状態の維持・改善のためのアドバイスを検査結果レポートに掲載するこ

とで健康な脳づくりをサポート。当サービスは、脳ドック施設をはじめとした医療機関を通じて、生活者を対象にお求めやすい価格で提供される。

当サービスは、脳ドック施設をはじめとした医療機関を通じて、脳ドック受診時に提供する。受診時に、脳MRIを医療機関が弊社クラウドシステムにアップロードし、クラウド上で脳解析AI技術が動作、2分程度で検査レポートが自動出力される。提供される検査結果レポートを医療機関から検診医による受診者への説明とともに提供する。

認知症は発症の十数年前から脳萎縮などの症状が起こると言われており、まだ健常な世代の受診者に対して、自身の脳の健康状態を「見える化」することによる脳に良い生活への意識啓蒙を当社は目指している。

## 1. 受診者の理解向上・啓蒙促進を主眼にした検査結果レポート

医師と受診者にとっての「よりシンプルに、より身近に、ブレインヘルスケアを」を実現。脳の健康維持のための予防行動の示唆に富んだアドバイスを含む、結果レポートを提供している。

従前の脳画像解析サービスは、認知症専門医を対象に開発されてきたが故、解析結果レポートは情報量が多く、一般的な医師がパッとみて理解しにくいこと、受診者にとっては